

道有林におけるハマキガ類の発生状況

(1979 年)

鈴木重孝・上条一昭

1979 年のハマキガ類の発生状況は、6 月中・下旬に、旭川 79 林班(1935 年植栽) ,同 78 林班(1953 年植栽)、滝川 36 林班(1929 年植栽)、道立林業試験場トドマツ集植所(1962 年植栽)の 4 ヲ所で調べた。本年は 5 月の気温が平年にくらべて低かったので、コスジオビハマキの発育がかなり遅れるものと考え、例年より 1 週間ほど調査を遅らせたが、実際には 2~3 日程度の遅れであった。調査結果は表 - 1 に示した。

1979 年のハマキガ全体の個体数は昨年よりさらに減少した。コスジオビハマキは旭川 79 林班、78 林班で 1 枝当り 0.02 匹となり、この種の大発生が問題になった 1965 年以降では最低の密度

表 - 1 1978 年と 1979 年のハマキガ類の数 (6 月調査)

種 名	調査地	コ	ト	タ	モ	ト	ト	ト	そ	ハ
		ス ジ オ ビ ハ マ キ	ウ ヒ オ オ ハ マ キ	テ ス ジ ハ マ キ 類	ミ ア ト キ ハ マ キ 類	ド マ ツ ア ミ メ ハ マ キ	ド マ ツ メ ム シ ガ	ド マ ツ チ ビ ハ マ キ	の 他 の ハ マ キ ガ	マ キ ガ 類 合 計
旭川 79 林班	1978 年	0.05	0.10	0.08	0.42	0.62	2.52	0.15	0	3.94
	1979 年	0.02	0.07	0.18	0.75	0.15	0.40	0.17	0.02	1.76
旭川 78 林班	1978 年	0.06	0.13	0.54	0.29	0.01	0.02	0.05	0	1.10
	1979 年	0.02	0.22	0.77	0.48	0	0.02	0.15	0.02	1.68
滝川 36 林班	1978 年	0.40	0.18	0.28	3.65	0.95	8.80	0.40	0	17.66
	1979 年	2.83	0.15	0.25	2.50	1.40	2.75	0.55	0.03	10.46
美 唄 市 トドマツ集植所	1978 年	0.86	0.53	2.52	0.52	0.28	0	0.01	0	4.72
	1979 年	0.55	0.54	2.11	0.59	0.50	0	0.02	0.01	4.32

注：数値は 50 cm の枝 1 本当りの個体数

となった。これは当林業試験場構内のトドマツ集植所でも同様の結果であり、コスジオビハマキの大発生が完全に終息したことを示している（図 - 1）。滝川 36 林班は 1977 年以降、他の 3 ヲ所とは異なり個体数がふえているような傾向を示しているが、これは 1977 年にそれまで調査していた調査地点を少しずらし、隣接のコスジオビハマキの数が増加する時期にあたる閉鎖して間もない林分を対象にしたためと考えられる。

1977 年に一時的に個体数が増加したトドマツメムシガは、昨年に続いて本年も数が減少し、最も数の多かった滝川 36 林班でも 1 枝当り 2.75 匹であった。しかしここと隣接している 41 林班（1960 年植栽）のトドマツ 200ha に部分的ではあるがこの種による被害が今年になってから認められているので、まだ密度が高くて被害が目につくところもあると思われる。

本年はハマキガばかりでなく、他の害虫の発生もあまり見られなかった。昨年まで道東地方に発生していたマイマイガ、キバラハバチ、カラマツヤツバキクイなども発生がほぼ終息した。ただ苫小牧地方のカラマツに発生したカラマツハラアカハバチだけは被害林分がさらに広がる気配である

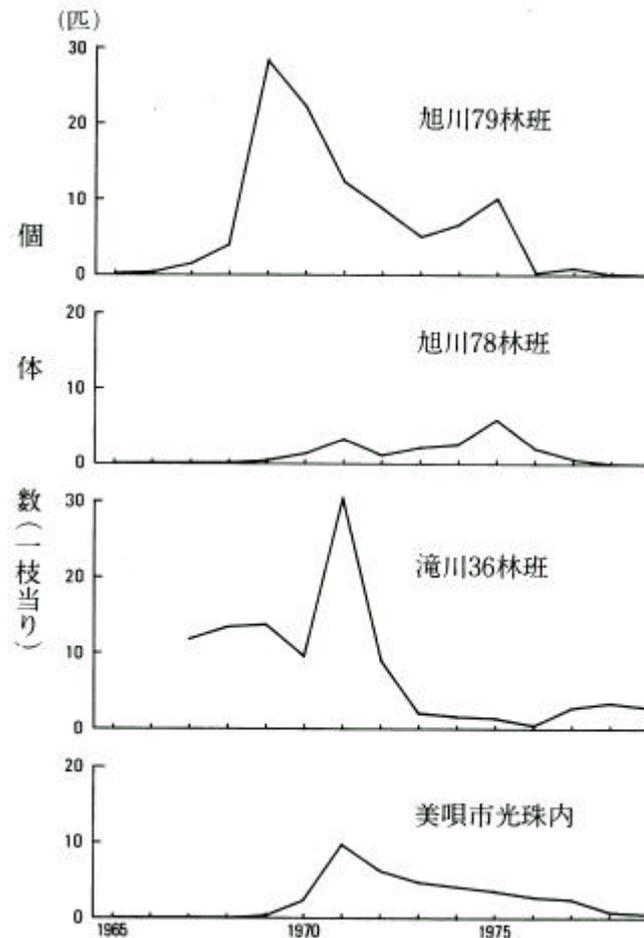


図 - 1 コスジオビハマキの個体数の年次変動

（昆虫野兔鼠科）